

## 第4回子ども・子育て会議意見一覧

資料2：第5回子ども・子育て会議  
令和4年2月10日（木曜）

### 議題1 市民とともに描く子どもの未来像について

No.	委員名	意見・質問概要
1	橋本委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・委員全員が共通認識を持ったうえで、議論を進める必要がある。</li><li>・東京都のこども未来会議の進め方が参考になる。</li><li>・子どもの未来像を提言するに至る経緯を事務局から提供してもらうことも有用である。</li></ul>
2	田中委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・子育ての悩みは小さいうちに解決することが重要であるため、すぐ相談できる環境づくりが必要である。</li><li>・子どもの権利条約にあるような知識を子ども自身が知ることができる場の提供が重要である。</li><li>・子どもの未来像というより流山市の子育ての未来像を話し合いたい。</li></ul>
3	藪本委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの会議でどのような議論がなされたうえで計画の理念が決定されたのか、これまでの審議会委員の方々に意見をきく機会があってもいいのではないか。</li><li>・近年量についての議論が多く、基本理念にある「切れ目のない」支援について議論を行う必要がある。</li><li>・議題設定を事務局による設定だけでなく、委員発信による設定ができるような会議づくりをする必要がある。</li><li>・会議の冒頭に計画のどの部分についてその日議論を行うのかわかるよう説明してほしい。</li></ul>
4	羽中田委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民目線で議論を進める必要があるため、計画を策定するにあたり市民による評価を実施しているか。</li><li>・教育委員会との連携はどのように進めているのか。</li></ul>
5	矢口委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・各委員がそれぞれの立場で課題を抱えているので、それを持ち寄って議論することが必要である。</li><li>・理念の策定経緯は藪本委員と田中委員が継続して審議会に参加しているため学びたい。これまでの委員との意見交換できる場があれば参加したい。</li></ul>
6	高山委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの経緯について学ぶことができる場があれば参加したい。</li></ul>
7	伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの会議で出た子どもの未来像の意見についても踏まえながら議論を進める必要がある。</li></ul>

議題2 施策事業に対する課題共有について

No.	分類	委員名	意見・質問概要	関連する個別事業番号	事業担当課
1	計画見直しにおける分析、手法に関する意見	橋本委員	・計画策定以降の2年間の環境変化や状況を整理し、個別事業を検証する必要がある。実態数値で評価を行い、すぐ修正する必要があるか、見直しをするのか等分類を行う必要がある。	全般	—
2	計画見直しにおける分析、手法に関する意見	羽中田委員	・この会議で担う分野が多岐にわたるため、他の部署とのすみ分けを明らかにしたうえで議論する必要がある。 ・事業評価について、事業内容のどの部分が良く、どの部分が課題なのか捉えられていないため、個別に内容に関わる評価を再度したうえで、計画を策定する必要がある。	全般	—
3	計画見直しにおける分析、手法に関する意見	藪本委員	・現場の声を拾って担当課と課題を共有する必要がある。場合によっては共有の場に委員が同席するなどしてはどうか。計画と実施状況とのずれを小さくする必要がある。 ・委員が意見書を提出した際は、正式な会議資料として取り扱っていただきたい。	全般	—
4	計画見直しにおける分析、手法に関する意見	柏女会長	・子どもの貧困計画が未策定のため、今後子どもをみんなで育む計画にどの部分を盛り込むのかが検討課題である。 ・計画見直しの際は、この会議に関係各課が参加したうえで議論することが重要である。	全般	—
5	個別事業に関する意見	松本委員	・ファミリーサポートセンターの利用会員に対して提供会員数が不足している。広報を積極的に実施しているが、別の対策案があれば提案いただきたい。 ・メンタル疾患のある利用会員が増加し、保育園等の送迎支援期間が長期化している。 ・ファミリーサポートセンターは12歳までの児童を対象とした事業であるため、中学校以降は市による切れ目のない支援を実施してほしい他、そうした保護者に対する対応を学ぶことができる研修に参加したい。	事業番号20 ファミリーサポートセンター	子ども家庭課
6	個別事業に関する意見	田中委員	・民間と協働により実施している事業一覧を作成し、事業の進捗管理を行うてはどうか。 ・市民団体に対して補助金による支援を行うことも必要と感じる。	全般	コミュニティ課
7	個別事業に関する意見	小澤委員	・流山おやこ劇場では、不登校児童へのフリースペースを実施しているがボランティアが不足している。ボランティアを雇いたくても、市の補助金は人件費に対して補助が出ないため、苦慮している。	—	コミュニティ課
8	個別事業に関する意見	田中委員	・こどもの権利条約の周知啓発について、既存の取りくみだけでは不足していると感じるため、CAPなのはどのような民間団体と協力し活動してはどうか。	事業番号50 こどもの権利条約・児童憲章の周知・啓発	子ども家庭課・指導課・障害者支援課
9	個別事業に関する意見	田中委員	・事業番号21の子育て支援に関心のある方々のネットワークづくりとは具体的に何を示しているのか。	事業番号21 子育てグループの支援	子ども家庭課
10	個別事業に関する意見	田中委員	・事業番号34の妊娠・出産・子育てサポートの産後ケアについて、利用料が高く、利用しにくいという声をよく聞く。事業評価にはそうした課題や利用料を示したうえで評価して欲しい。	事業番号34 妊娠・出産・子育てサポート事業	健康増進課
11	個別事業に関する意見	小澤委員	・不登校児童生徒への支援について、学校や家庭以外の居場所が圧倒的に不足しているほか、丁寧なかかわりが重要である。第二期計画の中に不登校事業に関する記述がないため、盛り込んでいただきたい。	事業番号4 各種相談 事業番号46 思春期相談体制の充実	指導課
12	個別事業に関する意見	矢口委員	・発達に心配のある子どもに対する、学校による個別指導計画や個別支援計画の作成支援について、学校側がどこまで支援ができてきているのか、体制が整っているのか気になる。	事業番号128 特別支援教育の推進	指導課
13	個別事業に関する意見	矢口委員	・子ども食堂と行政とのかかわりが薄く情報網がない。活動のうえで心配な家庭がいた際に、行政との連絡に対するハードルが高く、普段から連携が必要であると感じている。	—	子ども家庭課